第６回広島市タバコ対策懇談会　会議要旨

１　会議名
第６回広島市タバコ対策懇談会

２　開催日時
令和８年９月１日（火）１９：００～２１：００

３　開催場所
広島市役所本庁舎１４階第７会議室

４　出席委員（９名）
渡邉委員、津谷委員、平賀委員、櫻井委員、古田委員、中井委員、若狭氏（代理出席）、鈩前委員、星野委員

５　事務局
健康福祉局保健部参与(事)健康推進課長、環境局業務部業務第一課長、企画総務局総合調整課長
株式会社福山コンサルタント（分煙施設の実験的設置による効果の検証に係る調査の企画・運営等業務受託者）

６　議題
⑴　喫煙率の減少及び受動喫煙防止に向けた取組について
⑵　タバコ対策に係る実証実験について
⑶　その他
　広島駅周辺におけるタバコ対策に係る取組状況について

７　公開・非公開の別
公開

８　傍聴人
０名

９　会議資料
資料１：喫煙率の減少及び受動喫煙防止に向けた取組について
資料２：タバコ対策に係る実証実験について
資料３：広島駅周辺におけるタバコ対策の取組状況について

10　会議要旨
⑴　喫煙率の減少及び受動喫煙防止に向けた取組について

事務局（健康推進課）
－　資料１「喫煙率の減少及び受動喫煙防止に向けた取組について」を説明　－

津谷委員
・資料に記載のあるQRコードアクセス数の評価について、「分煙施設」及び「公衆喫煙所」とは具体的にどの施設を指しているのか。
・マツダスタジアムにおいて「ストップ受動喫煙」のモニター掲出をし、普及啓発をしている一方で、球場内では喫煙所からの煙による受動喫煙が発生している実態がある。特に西風が吹く時には、喫煙

所の煙が球場施設内に流入しており、受動喫煙への対策も早急に検討する必要があるのではないか。

事務局（健康推進課）
・「公衆喫煙所」とは、従来から本市が設置している喫煙所を指している。ひろしまゲートパークプラザ南側、京口門公園、袋町公園、国泰寺公園、広島市翔洋テニスコート北側及び平和記念公園南側緑地の６か所がある。
・「分煙施設」とは、現在アリスガーデンで実験的に設置している施設を指している。
・マツダスタジアム内において受動喫煙が発生している実態については認識している。関係部局とも情報共有を図りながら対応について検討してきたところであり、引き続き適切な対応について関係部局と連携していく。

櫻井委員
・分煙施設と公衆喫煙所の違いは何か。定義等による明確な区別はあるのか。

事務局（総合調整課）
・公衆喫煙所は既に整備されている施設を指している。
・アリスガーデンの施設については、実証実験として設置しているものであるため「分煙施設」と表現しているが、明確な定義による使い分けをしているわけではない。

渡邉委員（座長）
・啓発ポスターのデザイン変更は、継続して同一のポスターを掲示するより効果的な取組であると考える。資料では分煙施設での活用が示されているが、公衆喫煙所においても同様に掲示する予定はあるのか。

事務局（健康推進課）
・啓発ポスターの効果検証を引き続き行う予定としており、公衆喫煙所についても同様に掲示する方向で調整を進めている。

渡邉委員
・受動喫煙防止に向けた普及啓発については、引き続き取り組んでいただきたい。

⑵ タバコ対策に係る実証実験について

事務局（総合調整課）
－　資料２「タバコ対策に係る実証実験について」を説明　－

津谷委員
・調査における「受動喫煙者」の定義及び評価方法とは何か。

事務局（総合調整課）
・アリスガーデンにおける滞在者のうち、喫煙者の半径２メートル以内の非喫煙者を受動喫煙者と定義し、目視で調査を実施した。
・受動喫煙者の割合である受動喫煙者率を分煙施設設置前後で比較したところ、低下した。

事務局（株式会社福山コンサルタント）
・喫煙者が分煙施設に集約されたことから、この場所だけ見ると喫煙者・受動喫煙者数ともに増加しているが、アリスガーデン全体に占める受動喫煙者の割合は低下しており、受動喫煙に遭遇する確率がトータルでは減少したと評価している。

津谷委員
・受動喫煙者数が増加している中で、割合のみを根拠に受動喫煙が減少したと評価することは正しくないのではないか。
・基本的に公園は完全禁煙が本来の姿であるため、実証実験終了後は、完全禁煙を目指すべきである。

若狭氏
・日常的に現地を確認しているが、アンケート結果と同様に吸い殻のぽい捨てが減少しており、環境改善効果を実感している。
・喫煙者がアリスガーデンに集約されたことで、周辺路上での喫煙が抑制され、路上での受動喫煙の機会が減っている可能性がある。
・完全禁煙が理想ではあるが、どうしても喫煙する者がいる。喫煙者に注意を行う際には、併せて案内できる喫煙場所が必要であると考える。
・分煙施設の利用者があふれて施設外で喫煙する事例や、施設周辺へごみの集積など課題はあるものの、地域として分煙施設は必要であり、設置を継続してほしい。

櫻井委員
・分煙施設付近の赤いモニュメント付近に座って喫煙している者が非常に多いことが問題と感じる。
・喫煙者数が分煙施設設置前後で大幅に増加しており、集約するという視点では効果があるかもしれないが、受動喫煙者数が増加している点は慎重に評価すべきである。

渡邉委員（座長）
・分煙施設付近のステージに座るなど、分煙施設外で喫煙している者が多いため、対策を検討すべきではないか。
・市が本年８月に実施したモニタリング調査とはどういったものか。

事務局（総合調整課）
・先ほど報告した３か月後調査と同様に、喫煙者数や受動喫煙者数、吸い殻のぽい捨て等数、喫煙者や吸い殻の分布を目視で調査した。
・本市が令和６年８月にアリスガーデン、袋町公園、新天地公園で実施した調査と同一条件での比較が可能となるよう、同じ８月に調査を実施した。詳細は次回懇談会で報告を行う予定である。

星野委員
・前回の懇談会後、社会福祉協議会や地域関係者と意見交換を行った結果、横川駅かよこバス車庫付近に分煙施設が整備されれば、喫煙者を誘導でき、通行者も少ないため、受動喫煙が発生しにくく地域課題解決に繋がる可能性が高いと考えている。
・現在、灰皿が設置されている商店街の通路幅は２～３メートルしかなく狭いため、市が実施した調査の定義で言えば、通行者全員が受動喫煙者となる。こどもも多数通るため、地域としては改善したい。
・若狭氏の発言にもあったように、分煙施設の整備により、まずは喫煙者に対して注意しやすい環境づくりを進めたい。また、横川駅周辺は喫煙制限区域外であり、どこで喫煙してもいい状態であるため、分煙施設の設置と並行して喫煙対策についても検討してほしい。
・未成年者の喫煙は非常に重要な課題と考えている。タバコ販売時の年齢確認の徹底が重要である。

津谷委員
・未成年者の喫煙は非常に大きな課題であり、喫煙防止教育と継続的な啓発が重要である。
・過去と比較して若年層の喫煙率は大幅に低下しており、今後も禁煙指導等を継続する必要がある。
・市の調査では、受動喫煙者の定義を「喫煙者の半径２メートル以内の範囲」としているが、産業医科大学が公表しているデータでは、半径７メートルとされており、確認が必要と考える。

事務局（総合調整課）
・商店街周辺の受動喫煙環境については、本市としても課題と認識している。課題解決に向けた取組として分煙施設設置について前向きに検討したい。
・横川駅周辺での分煙施設の設置は、アリスガーデンとは異なる環境下での実証実験として意義があると考えている。

渡邉委員（座長）
・アリスガーデンにおける分煙施設設置後３か月後調査結果では、少なくとも吸い殻のぽい捨てについては大きく改善していると評価できる。
・受動喫煙者については、割合は下がっているが、人数について継続検証が必要と考える。
・受動喫煙はゼロを目指すべきであり、今後も利用マナーの啓発等に引き続き取り組む必要がある。

⑶ 広島駅周辺におけるタバコ対策に係る取組状況について

事務局（業務第一課）
－　資料３「広島駅周辺におけるタバコ対策に係る取組状況について」を説明　－

鈩前委員
・ぽい捨て指導員による巡回について、喫煙されている場所や時間帯と巡回している場所などがずれているように感じる。大通りのバス停などはあまり喫煙者はおらず、猿猴川の土手沿いなどに喫煙者が多いほか、夜間の喫煙者も多い。
・広島駅南側に、喫煙場所があまりないことが課題である。
・喫煙制限区域等の路面標示は、劣化しているものが多いので、順次更新してもらいたい。

事務局（業務第一課）
・巡回ルートについては、見直しを行い、現在は猿猴川沿いを中心に巡回している。時間帯については、日中の時間帯とはなるが、その中でも、昼食後など、巡回の時間帯を検討したい。
・路面標示については、予算の範囲で、毎年 40 か所程度を更新している。
・現在の取組に加え、広島駅のデジタルサイネージを使用し、喫煙制限区域等を周知することについて、関係部局と調整を行っている。

鈩前委員
・昼間は暑さもあり、外に出る人は多くなく、路上喫煙は朝夕の通勤の時間帯や夜が多い。夜間の巡回は難しいと思うが、時間帯を考えていただきたい。

津谷委員
・指導員による巡回は、暑くて大変な中、トラブルもあるのではないかと想像するが、本当に頑張っていただいており、感謝している。

古田委員
・毎月、広島駅周辺の清掃活動を行っているが、タバコの吸い殻は減っていると感じており、現在の地道な取組を継続してもらいたい。一方で、猿猴川沿いが喫煙スポット化しており、重点的に取り組んでもらいたい。

渡邉委員（座長）
・タバコの吸い殻が、どこに多く落ちているかということを把握しているのか。

事務局（業務第一課）
・ぽい捨てごみの定点調査を行っており、それぞれの場所で、ごみの量やごみの種類は把握している。

櫻井委員
・紙タバコと電子タバコで、吸い殻の比率がわかるか。

事務局（業務第一課）
・そこまでの区分けはしておらず、どちらも吸い殻として把握している。

中井委員
・タバコの種類について、広島市での現状の比率は、加熱式タバコが全体で約 47%、中区などでは 50%を超えている。ぽい捨てについては、加熱式タバコと紙巻タバコで半々ぐらい、場所によっては加熱式タバコが若干多い感じがする。
・日本たばこ産業では、各種清掃活動への参加に加え、望まない受動喫煙の削減に向け、吸い殻の量の調査などでも協力をさせていただいている。
・実証実験における受動喫煙の定義である「２メートル」の考え方については、第３回懇談会で市が報告した PM2.5 濃度予備調査において、タバコの煙の拡散状況や障壁、風向きなど様々な条件下の PM2.5 濃度が測定されており、その結果が参考になる。一方で、「７メートル」という基準については、厚生労働省のホームページにも記載されておらず、明確な根拠が見当たらないことから、その妥当性を検証するために予備調査が行われ、実証実験が進んでいると認識している。

津谷委員
・現在のオーラルタバコ（パウチ）の販売状況について教えて欲しい。

中井委員
・オーラルタバコ（パウチ）の販売状況について、販売割合は全体の 0.1%未満であるものの、外国人観光客や長距離移動を伴うビジネスマンを中心に購入されており、広島駅周辺と郊外では販売実績に大きな差がある。
・オーラルタバコ（パウチ）について補足説明すると、北欧では紙巻タバコに次ぐ主要なカテゴリーとなっており、日本においても外国人観光客の増加や環境美化の観点から一定の需要がある。

渡邉委員（座長）
・喫煙者が喫煙可能な場所を利用し、マナーを守って喫煙することが一番重要である。
・また、巡回パトロールの継続や吸い殻が多い場所への啓発など、ぽい捨て対策や喫煙マナーの周知を進めていく必要がある。
・アリスガーデンでの実証実験については、ぽい捨てが減少する傾向が見られていることから、引き続きモニタリング調査の結果を踏まえながら効果を検証していく必要があると考える。
・また、横川駅周辺については、アーケード内の喫煙環境は望ましくないため、早期に対策を検討すべきである。